



NIPPON BEARING

6月26日付 日本経済新聞広告 回答と解説

【問題】日本発祥と言われている扉(戸)はどれ？

- ① 開き戸 ② 引き戸 ③ 回転扉

【答え】② 引き戸

【解説】

日本発祥と言われている扉(戸)は、引き戸です。

引き戸が日本で生まれ発達したのは、日本の風土が大きく影響していると考えられます。

引き戸は、開き戸のように開閉の際に戸が動くためのスペースを必要としません。

他の扉(戸)と異なり、出入り口としての仕切りだけではなく、空間の仕切り(壁)の役目も果たします。

出入り口の際まで部屋を有効活用でき、仕切りをすべて開ければ小さな部屋が広い部屋に早変わり！

風通しも良くなります。湿気が多く、国土の狭い日本ならではの発達だったのでしょう。

日本家屋が木造であったことも、引き戸が普及した要因の一つです。

ベアリング技術が発達する以前、重い引き戸は実用的ではありませんでした。

石や鉄を使わない日本家屋では、軽い素材で引き戸を作ることが出来たのですね。

近年、病院の診察室や病室の出入り口では、引き戸が多く使われています。

開き戸と異なり、戸の前に人がいても入り口を開けることができるというメリットがありますが、

その他に、襖や障子の引き戸と大きく異なる点があります。

実は、直動ベアリング製品が使用されていることで、お年寄りや患者さんが軽い力で開閉でき、

まるで自動ドアの用にスーッと開いて、なめらかに閉まる引き戸になっているのです！

これこそ、直線運動を支えるベアリング技術の発達により、可能となった動きでしょう。

開き戸は、外と内を遮断する役目があり、引き戸とは大きく性質が異なるものです。

世界各国にあり、日本にも古くから存在していましたが、外敵から身を守るため、より強固な

開き戸が生まれました。

回転扉は、この3択の中では一番新しい扉で、ヨーロッパなどの寒い地方で生まれました。

室内の空気を逃がさず、外の空気が入りにくい構造になっています。

現在では、その気密性維持の性質から、様々なビル等で利用されています。

【企画・協力：㈱学研エデュケーショナル】